



みなさんの生活や想い、行動にも
何か変化がありましたでしょうか？

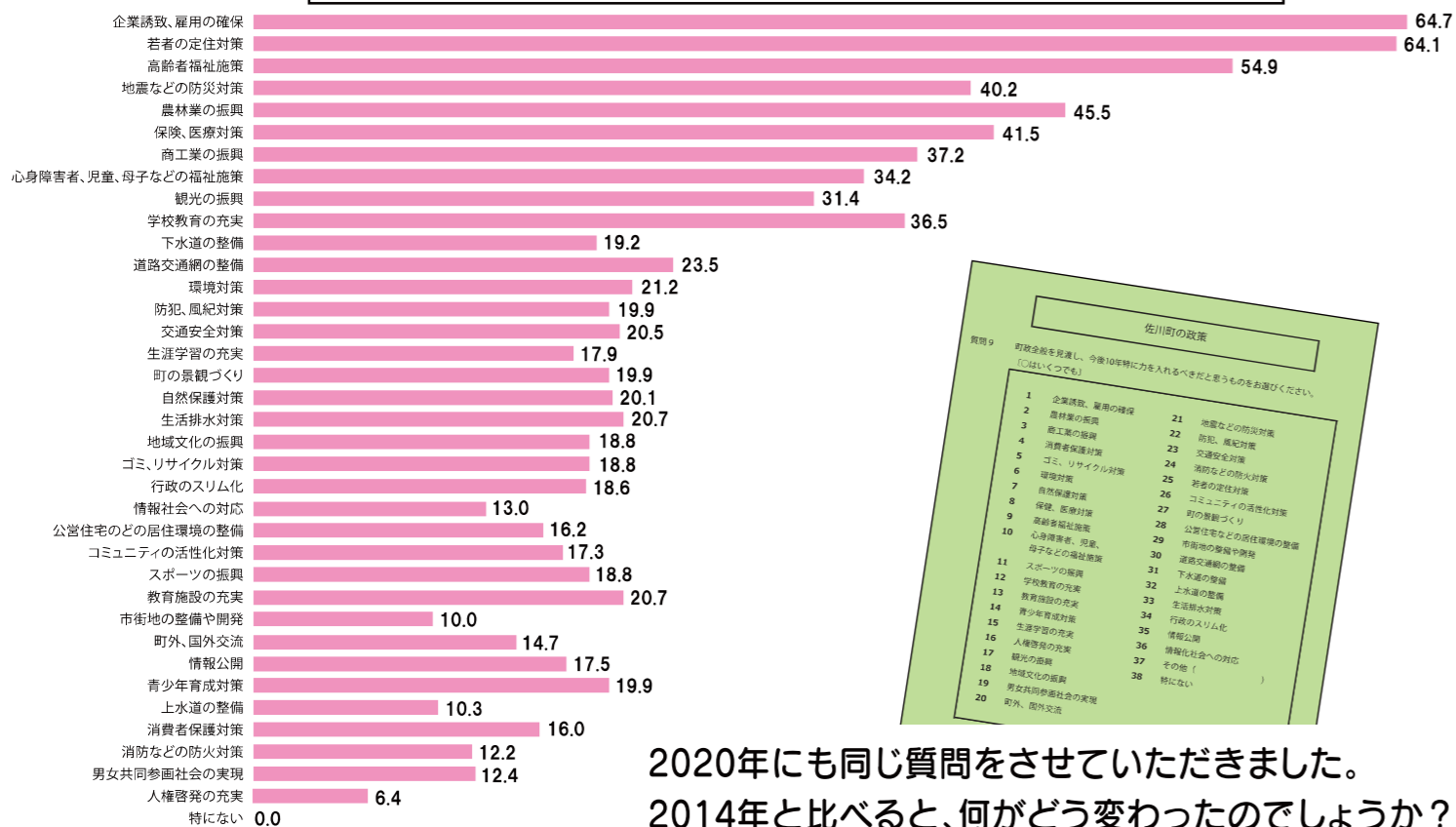
2015.2.11開催 しあわせ会議のようす(桜座)

まじめに、おもしろく、みんなで作った総合計画も折り返し地点。
5年間、町民一人ひとりの「やってみよう」という気持ちが存分に発揮される
まちづくりに「チームさかわ」で取り組んできました。
こうした様々な取り組みの”今“を3回にわたって紹介します。

今月は①「教育」②「産業と仕事」について。

2014年 みなさんをお願いしたアンケートのひとつです。

質問: 町政全般を見渡し、今後10年特に力を入れるべきだと思うもの



2020年にも同じ質問をさせていただきました。
2014年と比べると、何がどう変わったのでしょうか？
少しではありますが、ひも解いてみたいと思います。

③ 広報さかわ R3.7

みんなでつくる 第5次佐川町総合計画

中間報告



- 7月号
- ①教育
- ②産業と仕事
- 8月号
- ③結婚・出産・育児
- ④観光振興と情報発信
- 9月号
- ⑤健康と福祉
- ⑥安全・安心
- ⑦行財政

広報さかわ

7月号

令和3年7月1日発行

今月の表紙



南北朝時代から続く
佐川町の古刹「乗台寺」。毎年7月24日には、納涼をかねた文殊大祭が行われてきました。
子供たちの元気な声が響き渡るにぎやかな光景が早く戻ってきますように。

PICK UP CONTENTS

- P 2 [特集] 総合計画 中間報告
- P 8 高北病院
- P 10 子育て・健康応援ページ
- P 14 おしらせ
- P 31 地質館だより
- P 32 ボタニカルニュース
- P 33 青山文庫だより & 文芸
- P 34 さかわ観光協会
- P 35 さかわ発明ラボ
- P 36 としょかんだより
- P 37 学校だより-佐川中学校-

広報さかわ R3.7 ②



by さかわ発明ラボ

放課後発明クラブ

子どもたちの楽しそうな声が響く、ものづくり体験ワークショップ



放課後発明クラブは、子どもたちに、「ものづくりを通して豊かな心を育ててもらいたい」という思いから4年前にスタート。クラブ申込者数も年々増えており、学びの場としての成果も見え始めています。



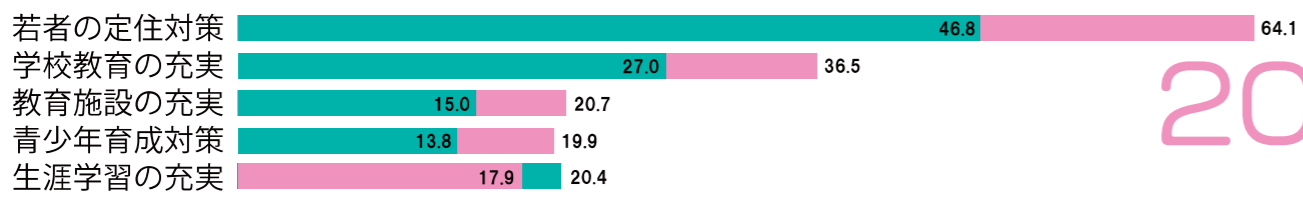
地域の活性化に寄与したい！
佐高生による「さくら咲くプロジェクト」



生涯学習のさらなる充実を目指して、さかわ発明ラボによる大人向けのワークショップや高知大学の出前講座も行われています。

2020

今後10年、特に力を入れるべきだと思うもの(教育分野)

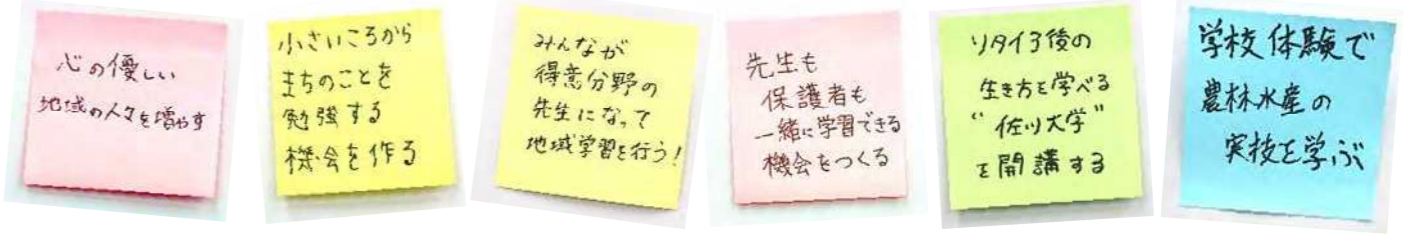


2014

様々な取り組みが評価されたためか、2014年と比べると多くの項目で5~10ポイント以上の改善が見られますが、生涯教育だけは前回のポイントを上回っていますので、さらなる充実が必要です。

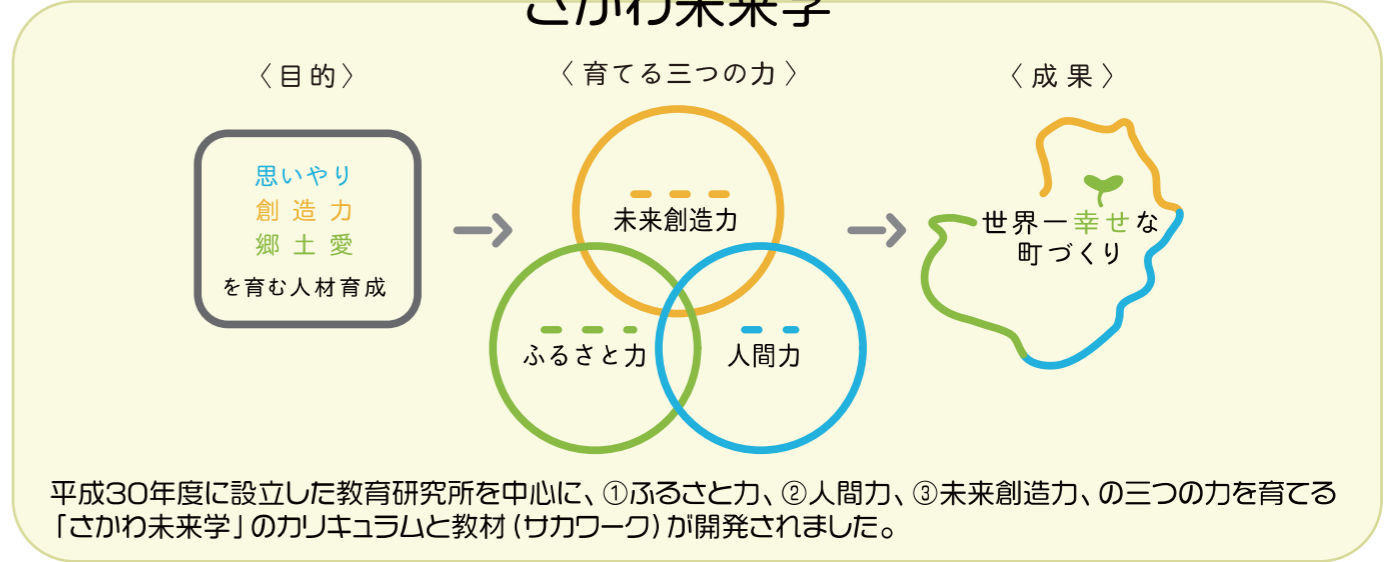
2014

みなさんから寄せられた「教育」に関する、ご意見やアイデア。



そこで... 佐川町の子どもたちには、町の歴史や文化、偉人、自然、生活、産業などを知り、将来に希望を持って力強く生き抜く人材に育ってほしい。そんな思いから創られた...

さかわ未来学



平成30年度に設立した教育研究所を中心に、①ふるさと力、②人間力、③未来創造力、の三つの力を育てる「さかわ未来学」のカリキュラムと教材(サカワーク)が開発されました。

ふるさと教育の教材「サカワーク」



デジタル教材を活用したプログラミング教育



整備が完了した学校のICT環境を活用し、町内すべての小中学校で「さかわ未来学」が本年度より本格的に始まっています。

インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー
Information and Communication Technology=情報通信技術

今後は集落活動センターにもタブレット端末を配備し、年齢を問わず利用できる、ICT環境を活用した「ふるさと教育」と「学びあいの輪」を、まち全体に広げていきます。

山を育てることが、水源や土壌・緑を豊かにし、仕事をつくり、まちを育てる。

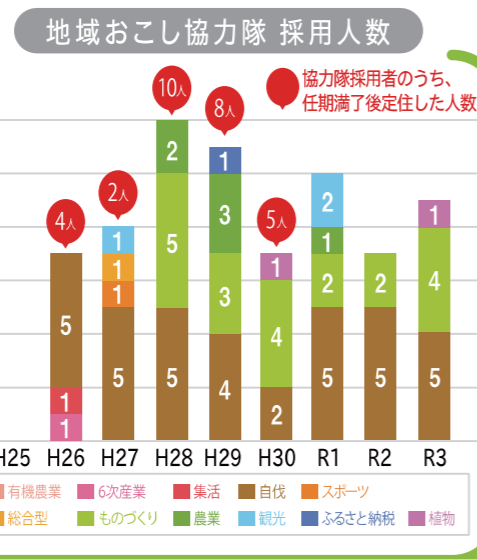


なかわ発明ラボ
 プロ使用のデジタル工作機器を使って誰もがものづくりに挑戦できる場として、これまで約4,300人の方に利用していただいております。また一方で、佐川町産の木材を使った製品の企画、開発も行っております。
 生み出された商品の中には、ハイブリッド作業所で生産され、ふるさと納税の返礼品のほか町内外のシミュレーション販売されているものもあります。今後、販売数とともに、新商品開発への参入者をさらに増やしていきます。



自伐型林業
 採算性と環境保全を
 高次元で両立する持続的森林経営

担い手を確保するため、地域おこし協力隊の雇用と森林所有者を含めた研修を実施。町に管理を委託していただいた林地は625ha以上になりました。森林管理のための情報基盤も、森林ICTプラットフォームの構築と航空レーザー測量によって大幅に充実。こうした取り組みは、平成31年に施行された森林経営管理法の先進的なモデルとなっている。さらなる佐川町の森林環境の向上と産業・人材の育成を推進していきます。



地域おこし協力隊
 佐川町では少子高齢化や人口の減少により、地域のコミュニティや産業の担い手不足が深刻になりつつあります。このため、国の制度をフルに活用して地域おこし協力隊を積極的に採用しています。また、協力隊の任期である3年経過後も6割以上が佐川に定住し活躍しています。



2020

今後10年、特に力を入れるべきだと思うもの(産業分野) 2014

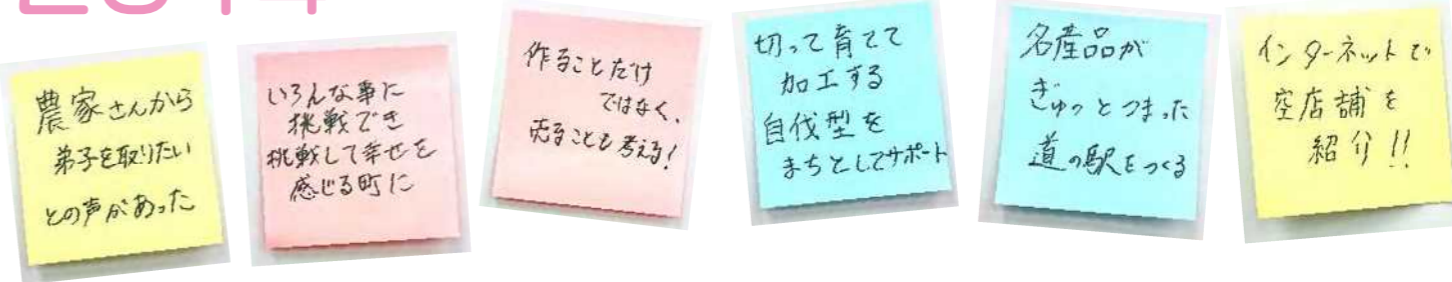


「企業誘致、雇用の確保」は10ポイント以上の改善が見られますが、力を入れるべきこと1位には変わりありません。地域の担い手となる人材を増やすためにも「しごと創出」を中心に進めていきます。

⑦ 広報さかわ R3.7 次回は、③「結婚・出産・育児」④「観光振興と情報発信」について紹介します。

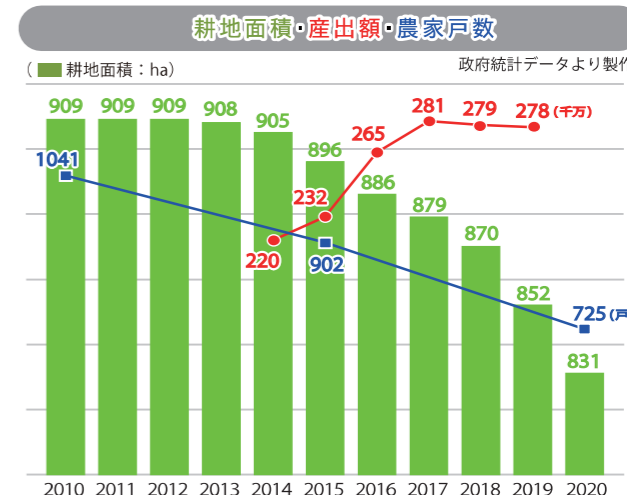
2014

産業と仕事に関して 寄せられた、ご意見・アイデア。



佐川町の特産であるお茶は、付加価値の高い茶葉やスイーツなどに加工・販売する6次産業化が進んでいます。

～耕地面積・農家数は減少するも、産出額は増加～



農業振興
 頑張る 佐川の農家・畜産家さん!

農地を適正に維持管理する団体に国の制度を活用した助成を行っていますが、耕作面積の減少が進んでいます。生産基盤の下支えをしっかりと行い、集落営農組織への発展に向けた取り組みにも支援していきます。



道の駅完成予想図



令和5年度の開業を目指す道の駅に向けて着実に準備が進んでいます。「地のものを使った商品開発・所得向上・担い手の育成」の好循環をまち全体に広げます。



通貨処理機メーカーのグローリープロダクツ(本社:兵庫県)高知工場を加茂地区に誘致。さらなる増産と雇用拡大に期待が寄せられています。

広報さかわ R3.7 ⑥